

## 第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）事業計画

第15期（2019年7月1日～2020年6月30日）の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

(1) 環境教育・普及啓発事業

2018年度に実施した、日本とガラパゴスを繋げる様々な活動により、関係する人や団体との繋がりが増え、事業の依頼も多くなった。JAGAでは引き続きこの機会を捉えて、ガラパゴスやその保全、そしてJAGAの活動についてより多くの方に知ってもらえるような事業を積極的に行う。

これと関連して、自然管理や観光管理について、ガラパゴスの事例を紹介することで日本の自然保護や世界自然遺産地域の管理に資する情報を提供する。保全への関心や理解が深まることも期待する。

- \* ガラパゴスと小笠原の人的交流、情報交換を行う。小笠原に関する公的機関（国・都・村）などの連携を密にし、継続した関係構築に努める。
- \* ガラパゴスに関連する団体（営利非営利関係なく）との連携を深め、双方に利益をもたらす活動を積極的に推し進める。
- \* 「ガラパゴス写真コンテスト 2019」開催、および「ガラパゴスカレンダー2020」制作、発行。ファンドレイジング／普及ツールとしても活用する。
- \* JAGA設立15周年を記念したイベントを検討する。
- \* その他、教育機関等での講演、講師の派遣、出版物への原稿執筆や翻訳、監修など随時対応。

(2) 情報収集提供事業

ガラパゴスに関する正しい情報を的確に提供する。

- \* 「ガラパゴス植物ガイド」の制作・印刷。伊藤秀三長崎大学名誉教授の協力を得て、観光用に持ち運びができるようなガラパゴスの植物に関する一般向けの簡易ガイドを出版する。
- \* ガラパゴスの自然管理および観光管理に関するウェブページの作成：日本のエコツーリズムや環境保全に対する情報提供など、関心やニーズが高い。
- \* 「ガラパゴスのふしぎ」に代わる書籍の発行。
- \* インターネットを活用した情報提供に力を入れる。（Facebookやメルマガ、ホームページなど）
- \* 会報発行を継続する。（年2号）
- \* 教育・科学機関、科学番組への協力・監修、マスコミ対応、情報・写真提供など、随時。

(3) 環境問題全般情報収集提供事業

近年関心の高まる海洋廃プラ、地球温暖化、リサイクルなどについて、情報収集・提供する。

(4) ガラパゴスの環境保全活動の支援

昨年度に引き続き海鳥保全のための生態調査支援（ペンギン基金支援事業）、スカレシアの森支援（BESSフォレストクラブ支援事業）、ガラパゴス・ベルデ2050（緑の募金事業）、環境教育や人材育成のための活動支援、ダーウィン研究所活動支援（会員・一般寄附支援事業）を行う。

経常的な支援に加え、現地のニーズについて随時連絡を取り、必要などころに必要な支援を行う。

(5) 国際協力事業

チャールズ・ダーウィン財団とJICAの提携を仲介する。（市街地の上下水道）

(6) 調査研究支援事業

需要があれば、支援を行う。（日本人研究者、大学院生の派遣など）

(7) 現地諸機関の運営支援事業

- ・チャールズ・ダーウィン財団運営支援：日本企業に自社製品提供などの支援をお願いする。

(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・企業への働きかけを強化する。ガラパゴスに進出している日本製品を提供している日本企業、および旅行代理店に対して、保全支援に協力をお願いする。
- ・ガラパゴスに行った旅行者へのアプローチについても検討する。
- ・寄附及び寄附者管理のクラウドツールである「コングラント」の導入。